

(前ページから続く)

を進めました。関東大震災を期に、セツルメント運動を展開していきました。

日本人の多くはポックリと死にたいと思うでしょう。ヨーロッパの人達は、最後まで人間としての尊厳を保ってホスピスで終りたいと願っています。米国のある老人会での事です。会の名を「人間的成長」といいましたが、其処では遺言書の書き方を学んでいました。アメリカ社会では、現役時代に社会的成功を収めた人は、その資財を次の世の人々に役立つように残す、図書館・美術館・コレクションの寄贈・大学創設資金・高齢者施設・音楽堂・公園・奨学基金等など、公共施設の充実の為に献金します。成熟度の高い社会と言えると思います。賀川豊彦は、米国プリンストン大学に留学して自然科学・欧米の福祉の在り方を見聞きして帰国されました、そして、人々を心から愛した人でした。神戸に生まれ、神戸のスラムを活性化させて、農民学校を作り、国民保健福祉事業を興こし、労働組合の先頭に立ち、灘生協を立ち上げ、「一人は万人のために、万人は一人のために」というスローガンのもと、人と人が手を携えて協力をして自立をしていく事を教えました。自立とは自分自身の完成を目指して一歩一歩登り詰めていくことでしょう。助け、助けられる事がサービスです。聖書に2人は1人に勝るとあります。人を隣人を大切にする、家族・隣人との関係を大切にしていける事が幸せを運び豊かさを築きます。愛し愛される、人格と人格が出会い、人と人が出会う何て学ぶかが大切です。神戸には、シルバーカレッジという素晴らしい生涯教育の場があります。このような設備カリキュラムの整った高齢者の学びの場は、世界の何処を探しても他に有りません。このしあわせの村の各施設に集う老若男女に良き学びと癒しの空間が提供されている事に全国の人々が注目しています。皆様はその手本となられる方々です。賀川豊彦は、結核という病を抱えながら最後の最後まで人生を歩き通した人でした。人に対して

畏敬の心を持っておられました。そして日本の福祉社会の骨組みを立ち上げていかれた方でした。講演の全てをお伝えするには筆不足で難しいことですが、ここに、阿部志郎先生の話された事を思い出すままに書きました。このような機会を頂きました事に感謝します。阿部先生と私は、この時初対面でしたが何と私達夫婦と20年来の友人である Hallam J. Shorrock 氏と深い知り合いであった事、私達が出席した国立教会での Shorrock 夫妻の結婚式で賛美歌を歌われた方が、賀川純基(豊彦さんの長男)氏であった事を知り本当に不思議なご縁を感じました。また、Shorrock 氏の奥様・深田康子さんの父上賀川豊彦と神戸新川にて共に働いたことを知り、その後東京松沢教会(賀川豊彦)国立教会(深田牧師)にて宣教の仕事を共に励まれたことを知ったのでした。

それはこの特別講演の司会をする数日前突然に、カリフォルニアから東京にいられていた Shorrock 夫妻からの電話で知った事でした。又この特別講演会に出席されて居た孫の賀川督明氏とお話すると Mrs. Hellen Shorrock (前夫人)をも共に良くご存知だと知りました。その様なこともあり、2009年の私の学びのテーマは、賀川豊彦の語り部としての学習をする事に決めたのでした。

灘生協本部があり、日常 Seer で買い物をする東灘区の住民としましても、日頃の感謝を込めてよく学び、良き事をよく伝えたいと思います。



情報ぎやらりー編集部からのお願い

情報ぎやらりーでは、会員相互の親睦を図るため、皆様が興味と関心を持ちそうな記事、情報提供や役立つ記事などの投稿をお待ちしています。ボランティア報告、区会部会短信などを具体的に簡潔にまとめて400字程度にして、出来るだけパソコンで送って下さい。手書き原稿でも結構ですが、必ず郵送でお願いします。締切日は特に指定しません。但し、電送、郵送とも「情報誌原稿」と明記してください。(未達の場合があります。)

